

学生の自立的な学習を促進する自己実現学習システムの構築

Development of Self-Actualization System for Promoting Self Directed Learning

長沼 将一^{*1}, 石橋 嘉一^{*1}

Shoichi NAGANUMA^{*1}, Yoshikazu ISHIBASHI^{*1}

^{*1}山形大学エンロールメント・マネジメント部

^{*1}Enrollment Management Department, Yamagata University

Email: snaganuma@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

あらまし：山形大学では平成 21 年度 文部科学省 大学教育推進プログラム採択事業「到達目標を明確にした自己実現学習システム」を行った。同事業では CP・DP の明確化を目的として、それを実質化するための e ポートフォリオを開発した。本稿では採択事業の概要と e ポートフォリオのシステム開発、および今後の展開について述べる。

キーワード：教育目標，カリキュラム，e ポートフォリオ，システム開発，学生情報

1. はじめに

山形大学(以下，本学)は平成 21 年度 文部科学省 大学教育推進プログラムに採択された事業「到達目標を明確にした自己実現学習システム」(以下，本取組)を行った。同事業ではカリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーの明確化を主要な目的として位置づけており，両ポリシーを実質化するための手段として e ポートフォリオを導入している。本報告では採択事業の概要と e ポートフォリオのシステム開発，および今後の展開について述べる。

2. 到達目標を明確にした自己実現学習システム

本取組の目的は，自立した人間として，より良くより力強く生きるための「人間力」を育成するため，初年次導入段階から目標達成段階の教育に至るまで，明瞭な目的・目標を持った授業科目を，学習の系統性や順次性に配慮して配置し，学生が自ら設定する学習到達目標を実現するためにどのような科目を選択すべきかを意識しながら学習を進める「自己実現学習システム」を構築するものである。この「自己実現学習システム」とは，具体的には以下の 2 つの大きな柱からなっている。

(1) 学士課程教育において学生が身につけるべき能力という視点から，科目・カテゴリごとの目的・目標を設定し，達成度を明確にしたカリキュラムへと再編成する。

(2)(1)の目的・目標を Web 上で学生に示す e ポートフォリオシステムを新たに開発し，学生が自らの将来と学問の志向を一致させることを常に意識しながら主体的に学習を進め，学士課程修了者に相応しい知識・技能と「人間力」を備え，社会に有為な人材として育つような新しい教育システムを構築する(山形大学教育企画室 2011)。

3. e ポートフォリオの機能

本学の e ポートフォリオの主要な機能を表 1 に示す(松田・蜂屋 2011)。この e ポートフォリオシステムは，学習の進捗状況を蓄積する物で，IMS の e ポートフォリオ分類(IMS 2005)では Presentation e-Portfolio に該当する。

表 1 e ポートフォリオの主要な機能

	機能名	表示内容
教 員 用	学生検索	学生を条件で検索
	担当学生習得状況一覧	アドバイザーとして担当している学生の単位習得状況一覧(条件別に並び替えて表示)
学 生 用	学習目標確認シート	分野ごと，科目ごとの学習目標と設定ポイント
	学習目標達成チャート	分野別のレーダーチャート，分野ごとの科目一覧・履修状況にリンク
	到達度確認グラフ	分野別の棒グラフ，同コースの同学年の平均到達度と併記
	自己評価記入シート	卒業までの目標や希望進路等のテキスト入力，アドバイザーからの所見も

4. e ポートフォリオの形成的評価

上記の e ポートフォリオについて，ユーザビリティの確認，機能改善・新機能開発要望を調査するための形成的評価を行った。評価の概要を表 2 に示す。なお，成績情報などの個人情報への配慮やテスト環境の都合から，評価には架空の学部・架空の学生のデータを用いている。

総体的に，現システムのユーザビリティ評価は学生の方が教員より高く，学生の評価には学年ごとの

差や学部ごとの差はあまりなかった。一方、機能改善要望および新機能開発希望に関しては、学生や教員が置かれている立場に応じた差がみとめられた。機能改善要望および新機能開発要望の上位5件をそれぞれ表3,4に示す。

5. eポートフォリオの機能開発

機能改善要望および新機能開発希望のうち、外部の制約条件によって実現が難しいものを除いた3項目、さらに質問項目にはなかったものの、自由記述などで要望が多かった項目を加えた以下の4項目について詳細仕様を策定し、業者に見積もりを依頼した。

- ・画面上に示される科目名をクリックするとその科目のシラバスが表示されるようにしてほしい
- ・学習目標確認シートで学生が単位を取った科目だけ色を変えてほしい
- ・単位取得シミュレーション
- ・学習目標確認シートでの科目成績の表示

これらの情報を、各学部の教育プログラムの担当者である教育ディレクターを集めた会議で提示し、開発の了承を得た後にeポートフォリオの機能開発を行った。

6. 今後の展開

本事業は昨年度でカリキュラムポリシー・ディプロマポリシーの両ポリシーの公表とeポートフォリオシステムの完成を以て終了した。今年度はこれらに基づいた教育活動を行い、さらに改善するための活動を進めていく。また、山形大学では本事業と並行して「総合的學生情報データ分析システム」の導入が進められており、eポートフォリオシステムと連携していわゆる教学IR(Institutional Research)として学生の学びの実態把握に努め、学生の自己実現に向けて取組を進めていく。

謝辞

本発表は平成21年度 文部科学省 大学教育推進プログラムの支援による。

参考文献

- (1) IMS Global Learning Consortium (2005) IMS e-Portfolio Best Practice and Implementation Guide Version 1.0 Final Specification.
http://www.imsglobal.org/ep/epv1p0/imsep_bestv1p0.html (2012年6月9日確認)
- (2) 松田岳士, 蜂屋大八 (2010) 全学規模のeポートフォリオ導入 現状と課題, 日本教育工学会 第26回全国大会予稿集, pp.423-424.
- (3) 山形大学教育企画室 (2011) 到達目標を明確にした自己実現学習システム.
<http://www.yamagata-u.ac.jp/ky-k/k-gp/index.html> (2011年6月9日確認)

表2 形成的評価の概要

項目	対象	内容
調査期間	学生	平成22年9月17日 -平成22年12月22日
	教員	平成22年9月17日 -平成23年1月7日
調査人数	学生	16名
	教員	9名
調査方法	ユーザビリティ	5件法
	機能改善要望	5件法
	新機能開発希望	順位法(1位3点, 2位2点, 3位1点で換算)

表3 機能改善要望の上位5件

項目	平均	
	学生	教員
学外からアクセスできるようにしてほしい	4.81	2.00
画面上に示される科目名をクリックするとその科目のシラバスが表示されるようにしてほしい	4.56	3.44
学習目標確認シートで学生が単位を取った科目だけ色を変えてほしい	4.53	4.56
画面を印刷できるようにしてほしい	4.13	3.78
学習目標到達チャートからリンクされているポイント獲得履歴画面に具体的な科目名も表示してほしい	4.00	3.00

表4 新機能開発希望の上位5件

項目	点数		
	学生	教員	合計
単位取得シミュレーション	28	8	36
仮成績の表示	34	0	34
このシステムで使用している用語の解説画面	9	6	15
インターネットエクスプローラ以外のブラウザでの動作保障	8	6	14
グラフの種類を選択できる機能	9	2	11